

## 適切な水管理と病虫害防除を！

### 1 気象経過と生育状況

#### 【気象経過】

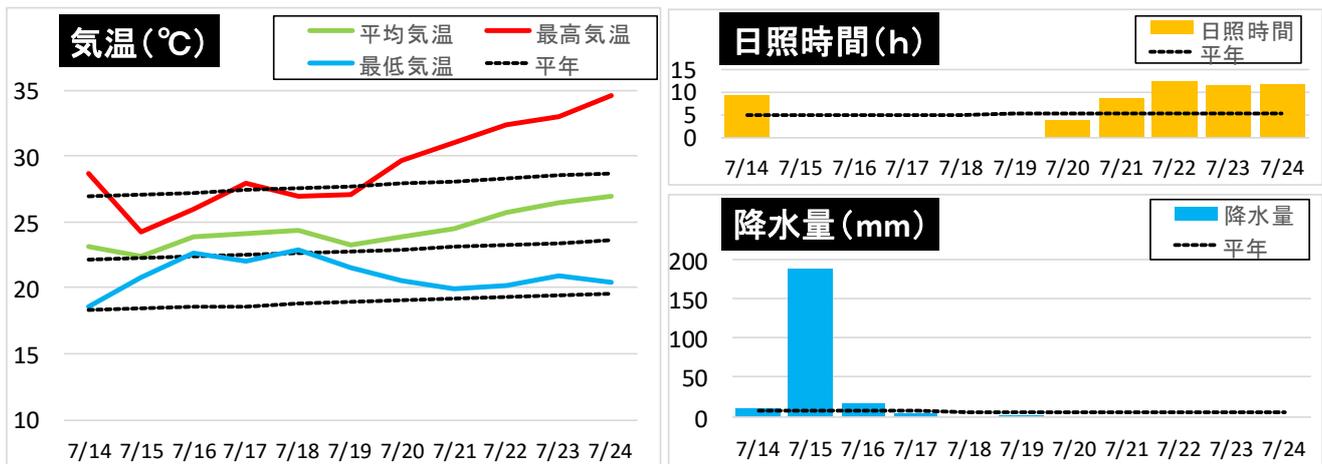


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

○7月14～24日の気温は、平年より高くなりました。日照時間は、前半は平年より少なく、20日以降は多くなりました。降水量は、7月15日に150mmを超える大雨が発生したため平年よりかなり多くなりました。（図1）

#### 【生育状況】

- 7月25日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は平年と比べて、草丈は長く、茎数は少なく、葉数は平年並、葉色は濃くなっています（表1）。
- 多くの定点ほ場で減数分裂期を過ぎており、数地点で走り穂も見られました。
- 日平均気温から算出したあきたこまちの出穂期は、中苗の5月20日植えて7月31日頃（平年：8月5日頃）と平年より早まる予測となっています（表2）。

表1 定点調査結果（7月25日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (葉)	葉色
本年	82.3	444	12.6	40.1
平年	74.9	506	12.6	37.6
前年	78.3	431	12.7	38.8
平年比	110%	88%	±0.0	107%
前年比	105%	103%	-0.1	103%

※平年は過去10か年の平均値を示す。

※葉色はSPAD-502で測定した。

表2 あきたこまち（中苗）の出穂期の予測  
（アメダス鷹巣）

田植日	出穂期（平年値）
5月15日	7月28日（8月3日）
5月20日	7月31日（8月5日）
5月25日	8月2日（8月7日）
5月30日	8月5日（8月10日）

※7月25日以降は平年値で計算した。

※出穂期：全茎数の40～50%が出穂した日のこと。穂が少しでも出ていれば出穂とする。

## 2 当面の水管理

- 仙台管区気象台の1か月予報（7月20日発表）によると、向こう1か月の東北地方日本海側の天気は、気温は高く、降水量と日照時間はほぼ平年並と予想されています。
- 出穂期までは間断かん水が基本となります。出穂期から開花期は水を多く必要とする時期なので、出穂後10日間は湛水状態にして、水を切らさないようにしてください。
- 湛水管理をせず中干しのような状態で高温登熟すると、白未熟粒やくさび米等の被害粒の発生が多くなります。
- 気温が30℃を超えるような暑い日は、用水を十分に確保できる地域ではかけ流しかん水等により地温を下げて、根の機能減退を防止しましょう。
- フェーン現象などで乾燥した風が強く吹く日は湛水状態を保ち、水分蒸散による稲体の消耗を軽減します。
- ★カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、出穂期3週間後まで湛水管理を厳守し、カドミウムの吸収を抑制してください。

## 3 病害虫防除対策 ～葉いもち急増、穂いもち多発のおそれ～

※飼料用米も主食用米と同様に、病害虫防除を行ってください。

### 【いもち病】

- 病害虫防除所によると、葉いもち病の発生は多い状況です。BLASTAM（アメダス）の判定では、7月中旬以降、管内で感染好適日が数回観測されています。本田初期防除の効果が切れていることから、今後の発生に注意してほ場を見回ってください。
- 7月14日から大雨によって冠水や浸水したほ場では、稲体の抵抗力が低下しているので、特に注意してください。
- 7月下旬以降に上位葉で葉いもちの発生がある場合は、出穂15～7日前にコラトップ剤またはゴウケツ粒剤/サンブラス粒剤のいずれかを散布するか、出穂直前にトライフロアブルかビーム剤と穂揃期にトライフロアブルかラブサイド剤を茎葉散布します。さらに、必要に応じて傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行い、穂いもちを防ぎます。
- 本年は出穂期が平年より早まるほ場が多くなる予想となっていますので、防除時期を逃さないよう注意しましょう。
- ラブサイド剤（フサライド）を含む農薬の総使用回数は3回以内となっています。

### 【斑点米カメムシ類】

- 病害虫防除所によると、斑点米カメムシ類の発生量は多い状況です。このため、薬剤防除は出穂期10日後頃と同24日後頃の2回散布体系を基本とします。
- 1回目の防除ではスタークル/アルバリン剤を出穂期10日後頃に畦畔を含めて茎葉散布し、その後7日以内に農道や畦畔の草刈りを行います。2回目の防除は出穂期24日後頃にキラップ剤（使用時期は収穫14日前まで）またはエクシード剤（同7日前まで）を、畦畔を含めて茎葉散布します（表3）。
- 法面や休耕田等の雑草地は、収穫2週間前までは草刈りをしないでください。
- 近隣に水稲以外の作物（野菜等）がある場合や養蜂業者がいる場合は、薬剤散布前に情報交換を密にして散布を実施してください。

表3 カメムシ類の防除に使用する薬剤

	薬剤名	希釈倍数	散布量 (/10 a)	散布時期
1回目	スタークル粉剤DL アルバリン粉剤DL	—	3 kg	出穂期 10日後頃
	スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10	1,000倍	150 L	
	キラップ粉剤DL エクシード粉剤DL	—	3 kg	
2回目	キラップフロアブル エクシードフロアブル	2,000倍	150 L	出穂期 24日後頃

～農業機械使用時には、安全に十分注意して作業を行ってください～

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで ～次回発行は8月下旬頃～